

教關係の傳説を載せたる物語本で挿繪をほさむ。上巻は彌勒菩薩乃事以下拾の話、中巻は八つ、下巻五つの話より成つてゐる。

その他に佐々木家の日記と稱する江源武鑑、淺井家の事を記したる淺井三代記、降つて天保年間の甲賀百姓一揆を記したる百足再來記、天保義民録(明治二十六年活版本)等の物語本、又は近江國城蹟記(一冊)江州武家古城記(一冊)等の特殊なるもの、近江國式社考(一冊寒川辰清)等がある。この小篇にては特に地方的な地誌には觸れなかつたが書目だけ舉げると栗太志(田中適齋)、栗太郡誌(山本栗齋)、湖西記(安永年間加賀藩士某)、彦根並近郷往古聞書(著者年代不詳、高商圖書館)がある。

終りにこの小篇作製に多大の御援助を賜はつた、彦根圖書館、長濱下郷文庫、彦根高商圖書館に深く感謝する次第である。(昭和九年盛夏)

新著紹介

新著紹介

○大塚地理學會論文集 第四輯 二五四頁 東京古今

書院發行 九年十二月 定價二圓三〇錢

續刊されて行つて人文地理研究の趨勢を示し且つ研究者への指針となつてゐる本論文集第四輯は内田寛一・田中啓爾・花井重次・福井英一郎の諸先生が陣頭に立つて、多くの文理科大學生を率ひ、殊に本論文集の後半が學生の研究に成る静岡縣下の人文地理の論文七篇を掲げてあることが著しい。各論文の著者と題目とを例によつて次に挙げる。(S)

花井重次 丹澤山地東南山麓地域の地形に就て(第一報)

福井英一郎 新潟縣下に於ける積雪の地域的研究(概報)

和田數雄 米澤市内に於ける屋敷内の土地利用の變遷

内田寛一 武藏野の計畫的開拓の一例(上)

櫻井豊記 大和川舊河床地域の村落境界

田中啓爾 近江盆地に於ける鐵道開通前の鹽及び魚の移入

路に就いて

田中啓爾 静岡地方に關する分擔研究(小序)

矢島仁吉 静岡市を中心とする茶業の地理學的研究(概説)

尾原信彦 静岡市の小工業地域

淺香幸雄 清水市の歴史地理學的研究(第一報)

伊藤郷平 静岡縣久能山南麓に於ける早期苜蓿栽培の立地に關する研究

上野福男 安倍川及大井川上流地域の人文地理學的考察(概報)

喜多村俊夫 静岡地方に於ける果樹栽培地域の研究

雜報

○印度に於ける農産物生産統制

一九三四年四月デ

リーに於ける經濟會議に右の生産統制が議せられた。
一、米 世界の現状から印度各地は現在作付反別以上に増加をしないこと、それは世界は現在米穀の過剰生産に陥つてゐるといふ意見によつたが、しかし孟買州以外の各州はすべて印度は米穀生産過剰にあらずとのべた、殊にビルマ代表はもし印度に於けるビルマ米の需要が現在の程度を持続するに於ては、ビルマに於ける米が拂底するとのべ、米の生産制限は申合せが出来なかつた、同時に外國輸入米に一モンドにつき一留比四安の課税をなさんとの意見に對して、商務長官はそれは苛重である、もしこれをやると諸外國に於ける印度農産品全部に報復の惧ありと警告した。

ビルマ・マドラス・ベンゴール・中央等各主要産地は現行米輸出税を不當なりとし之が撤廢を主張したが成立しなかつた、同時に國內での販路擴張をはかることが肝要だといふので、品質の改良をはかり鐵道の運賃を引下げること努力しやうと申合した。

二、小麥 小麥の作付反別三千三百萬噐に制限しやうとの議も亦不成立になつた、パンジャブ及シンドの代表者はこの兩

地方の主要農産物であるから之を制限することは以ての外だといつた。

三、棉花 については作付反別の増加と品種の選擇を考へ輸出並に國內消費に適する Yarn 種の栽培増加及シンド地方に産する長纖維の棉種を奨励することになつた。

四、黄麻 に關してはベンゴール地方政府の組織せる特別調査委員にまかせる事になつた。

五、落花生及カスター 印度の落花生は二百五十萬トン乃至三百三十萬トンである、一九三三年五十四萬六千噸を輸出したが更に増産の餘地あるべしと。

六、亞麻種 作付反別三百二十五萬噐で四十萬トン内外を産出する、これは品質優良だから猶二百萬噐の面積を増加することにきめた。

七、烟草 國內需要六百萬封度を確得するために、作付面積三萬噐を増すこと、其他甘蔗は未だ重要性がない、畜産物・果實及蔬菜類いづれも増産を奨励し保護關稅をかけることにきめた。

○パレスタイン

パレスタインに猶太民族の國を再建するザイオニズムの運動は、パレスタインに残住せる僅少の猶太人の希望たりしのみならず、多年外國で迫害されてゐる同族の熱望であつて、本國を追はれて二千年間に亘る彼等の希望は彼等自身の努力によつて其再建は漸次具體化した、最近では一八九七年バストラの第一回ザイオニスト大會で、